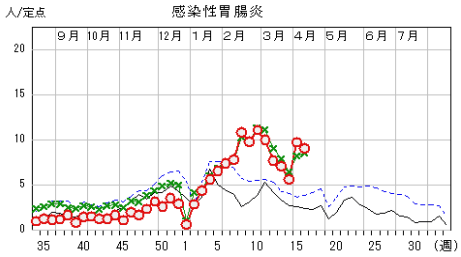
長崎県感染症発生動向調査速報（週報）

2025年第16週　　2025年4月14日（月）～2025年4月20日（日）2025年4月24日作成

☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

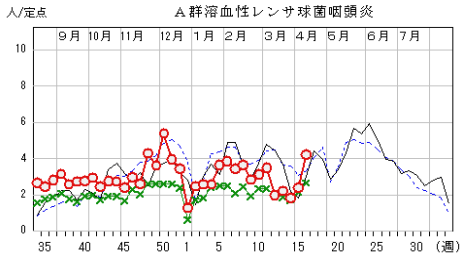
（１） 感染性胃腸炎

第16週の報告数は281人で、前週より21人少なく、 定点当たりの報告数は9.06であった。
年齢別では、４歳（41人）、５歳（32人）、１歳（31人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（22.50）、長崎市保健所（12.83）、西彼保健所（12.00）であった。



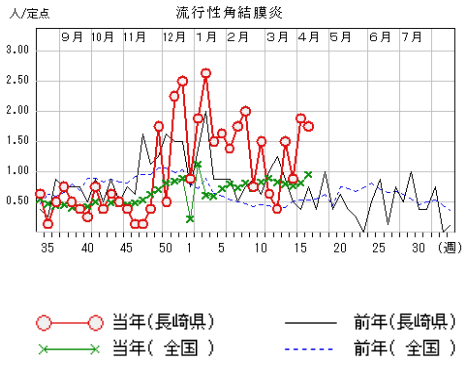
（２） Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第16週の報告数は131人で、前週より57人多く、 定点当たりの報告数は4.23であった。
年齢別では、６歳（19人）、10～14歳（19人）、９歳（18人）が多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（29.00）であった。



（３） 流行性角結膜炎

第16週の報告数は14人で、前週より１人少なく、 定点当たりの報告数は1.75であった。
年齢別では、60～69歳（4人）、５歳（2人）、30～39歳（2人）が多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（9.00）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：51、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12
（2025年第15週より定点数が変更されました）

☆上位３疾患の概要

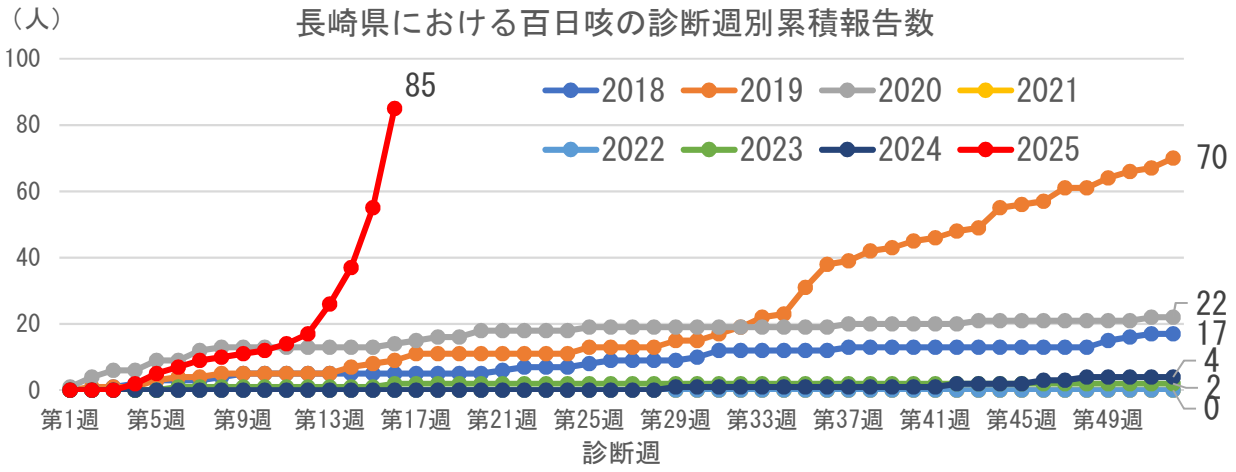
【感染性胃腸炎】
第16週の報告数は281人で、前週より21人少なく、定点当たり報告数は9.06でした。地区別にみると、佐世保地区（22.50）、西彼地区（12.00）は、警報レベルの報告数となっています。今後も動向に注意し、予防に努めましょう。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

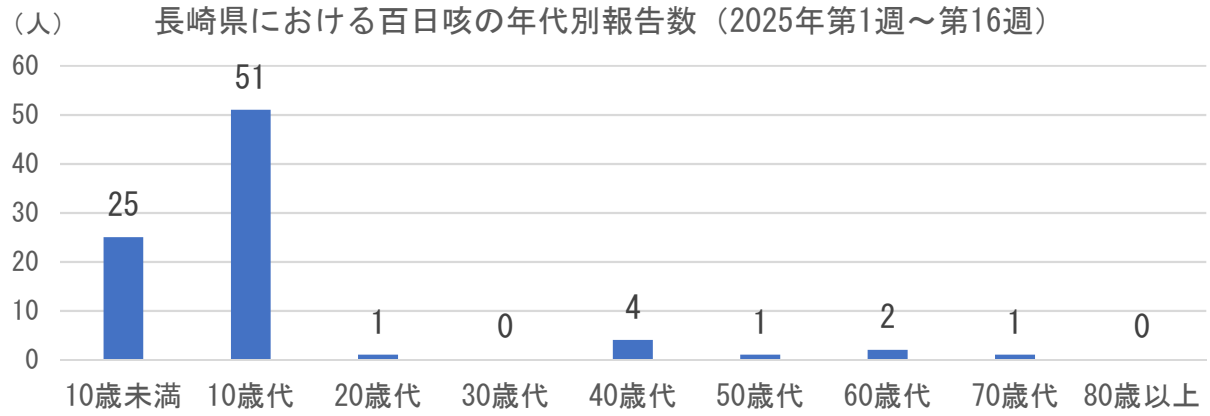
【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第16週の報告数は131人で、前週より57人多く定点当たりの報告数は4.23でした。地区別では、県南地区（29.00）が警報レベルの報告数となっています。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

【流行性角結膜炎】
第16週の報告数は14人で、定点当たりの報告数は1.75でした。地区別では、県南地区（9.00）が他の地区より多く、警報開始基準値「8」を超えています。
本疾患は、アデノウイルスによる疾患です。涙液や眼脂で汚染された指やタオル類からの接触感染により伝播し、小児からお年寄りの方まで幅広く罹患します。潜伏期は8日から14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙、耳前リンパ節の腫脹を伴います。角膜に炎症が及ぶと透明度が低下することがあります。有効な治療薬はなく、対症療法が基本となります。感染力が強いので、眼分泌物はティッシュペーパーなどで除去し、直接手で触れないように気をつけましょう。また、手洗いを励行し、洗面器やタオルを共有せず、触れた場所をアルコール等でよく拭くなどして感染防止に努めましょう。

☆トピックス：百日咳の報告が多くなっています

百日咳は、主に百日咳菌の感染によっておこるけいれん性の咳発作を特徴とする気道感染症です。潜伏期は通常５～１０日で、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増え程度も激しくなります。夜間の咳発作が多いことも特徴で、回復までに２～3か月かかることもあります。また、乳児では、肺炎、脳症を合併し、重症化することもあります。
ワクチンの定期接種により発生数は激減していましたが、2025年は第16週までに85件の報告があり、全数把握疾患となった2018年以降において、最多の報告数となりました。年代別では、10代が約6割を占めていますが、20代以上でも報告があっています。感染経路は飛沫感染ですので、咳エチケット、手洗い、手指消毒で予防に努めましょう。



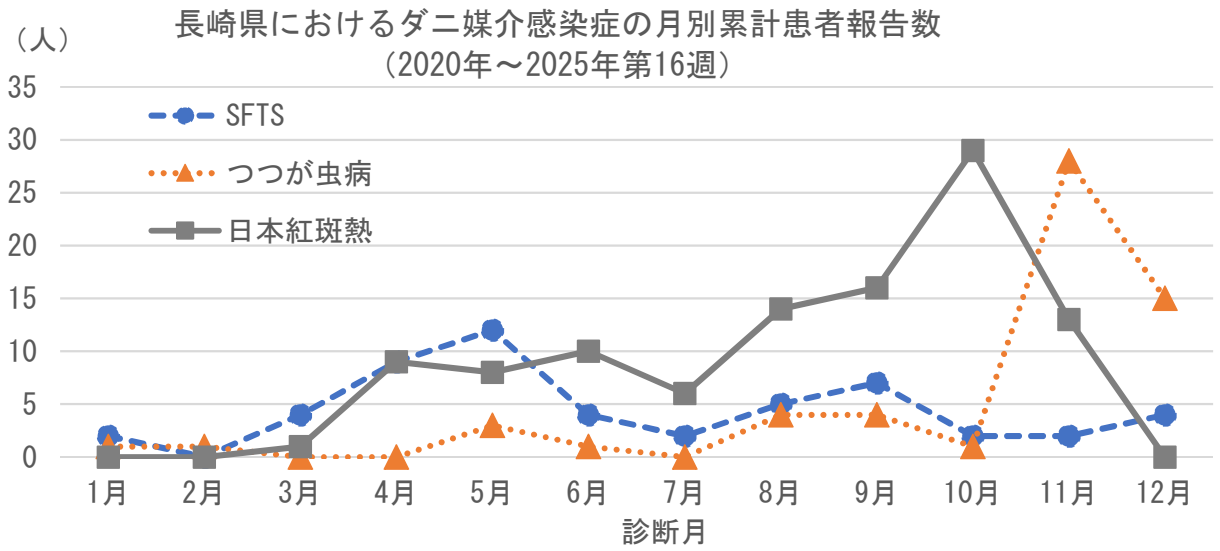


☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。これらの感染症の報告数は、ダニの活動が活発になる4月頃から増加します。

マダニ類が媒介するSFTSは、発熱、消化器症状が主な症状で、重症化して死亡することもあります。県内では2025年第16週までに2件の報告があがっています。近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。



長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2020	2021	2022	2023	2024	2025
SFTS	8 (1)	6 (1)	6 (3)	13 (1)	13 (4)	2
日本紅斑熱	18 (0)	28 (4)	22 (1)	14 (1)	23 (1)	0
つつが虫病	11 (0)	14 (0)	7 (0)	15 (1)	11 (1)	0

※（ ）は第16週までの発生件数

☆トピックス：急性呼吸器感染症（ARI）が5類感染症に位置づけられました

急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection：ARI)とは、急性の上気道炎（鼻炎、副鼻腔炎、中耳炎、咽頭炎、喉頭炎）又は下気道炎（気管支炎、細気管支炎、肺炎）を指す病原体による症候群の総称です。インフルエンザ、新型コロナウイルス、RSウイルス、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナなどが含まれます。

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の改正により、令和７年４月７日から急性呼吸器感染症が５類感染症に位置付けられました。ARIの流行の動向を把握すること、未知の呼吸器感染症の発生を探知することを目的に定点把握の対象となりました。県内では人口等を勘案して選定された51医療機関（ARI定点）から、1週間（月～日曜）にARIと診断された患者数が週に1回報告されます。

2025年第16週の定点当たり報告数は「73.54」でした。

ARIの予防には、換気や手洗い・手指消毒、マスクの着用を含めた咳エチケットなどの基本的な感染症対策となります。流行状況に応じて、感染予防に努めましょう。

◆全数届出の感染症

２類感染症：結核　患者　女性（30代・1名、60代・1名、80代以上・1名）
４類感染症：レジオネラ症　患者　男性（50代・1名）
５類感染症(全数把握対象)：侵襲性インフルエンザ菌感染症　患者　男性（10代・1名）
侵襲性肺炎球菌感染症　患者　男性（10歳未満・1名）
梅毒　患者　男性（30代・2名、40代・1名）
無症状病原体保有者　女性（50代・1名）
百日咳　患者　男性（10歳未満・6名、10代・6名、40代・1名、60代・1名）
女性（10歳未満・8名、10代・7名、40代・1名）

◆定点把握の対象となる５類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第11～16週、3/10～4/20）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	11週	12週	13週	14週	15週	16週
	3/10～	3/17～	3/24～	3/31～	4/7～	4/14～
インフルエンザ	1.33	1.72	1.38	0.99	1.14	1.04
新型コロナウイルス感染症	4.12	3.13	2.07	1.51	1.78	0.96
ＲＳウイルス感染症	2.28	2.02	1.79	1.56	1.97	1.39
咽頭結膜熱	0.56	0.53	0.42	0.35	0.35	0.45
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	3.49	1.98	2.21	1.81	2.39	4.23
感染性胃腸炎	10.00	7.70	7.09	5.65	9.74	9.06
水痘	0.05	0.19	0.16	0.26	0.23	0.39
手足口病				0.02	0.06	
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.33	0.23	0.21	0.21	0.29	0.35
突発性発しん	0.33	0.16	0.42	0.21	0.32	0.13
ヘルパンギーナ			0.02	0.05	0.06	0.13
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.02	0.05	0.05		0.03	0.03
急性出血性結膜炎	1.00		0.13		0.25	0.50
流行性角結膜炎	0.63	0.38	1.50	0.88	1.88	1.75
細菌性髄膜炎		0.08				
無菌性髄膜炎	0.08			0.08	0.08	
マイコプラズマ肺炎	0.17	0.42	0.25	0.25	0.25	0.17
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.08	0.17	0.42	0.33	0.92	0.50

※2025年第15週（4月7日～4月13日）～

急性呼吸器感染症（ARI）					66.24	73.54

（2）　疾病別･保健所管内別発生状況　　（第16週、4/14～4/20）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	1.04	2.29	1.73		0.80	1.25	0.40			0.33	0.33
新型コロナウイルス感染症	0.96	0.71	0.82	1.00	0.40	0.63	1.60	2.00	0.67		3.00
ＲＳウイルス感染症	1.39	2.25	0.67		3.00	1.00	3.33	2.50			0.50
咽頭結膜熱	0.45	0.75			0.67	0.40	0.33	2.50	0.50		
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	4.23	2.50	1.17		2.67	2.20	29.00	1.50	2.00		0.50
感染性胃腸炎	9.06	22.50	12.83	1.50	12.00	11.00	1.00	8.50			
水痘	0.39	0.50	0.67	0.50		1.00					
手足口病											
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.35	1.00	1.00					0.50			
突発性発しん	0.13		0.33			0.40					
ヘルパンギーナ	0.13	0.25						1.50			
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03		0.17								
急性出血性結膜炎	0.50		0.33				3.00				
流行性角結膜炎	1.75		1.67				9.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎											
マイコプラズマ肺炎	0.17					1.00					1.00
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0.50	3.00	0.67				1.00				

急性呼吸器感染症（ARI）	73.54	89.14	116.91	41.00	88.00	77.13	40.60	44.67	18.33	33.00	43.00